



鈴木多津枝議員

●子育てしやすい町づくりを求める
610名の署名にどう答えるのか
●地名・藤川保育園を児童館に

問

質問 安心して子どもを産み育てられる町づくりについて。
町長 子育て支援の充実、サービス見直しや新設も必要。放課後学童クラブ、乳幼児医療費補助拡充を求める署名610名から頂いた。署名は数ではない。中身の重さだ。①放課後学童クラブの必要性は充分認識している。今年度は学校の余裕教室1カ所で試行的に実施する。②乳幼児医療費補助拡充は考えていない。
質問 署名された方の気持ちどう考えるか。
町長 負担軽減は誰も歓迎だ。財源に踏み込めば意見は分かれる。
質問 大金注ぎ込む若者定住と矛盾する。
町長 住宅建てないと若者はここに住めない。家賃収入もある。

質問 国が子どもの医療費を下げ町負担160万円減る。補助拡充可能所得制限廃止は35万円できる。
町長 額の問題では無い。負担と給付、優先順位の問題だ。③妊婦健診補助は今年から助産院も対象にした。④休園中の地名・藤川保育園を児童館には、現在地区住民と最良の活用検討中。なるべく早く結論出したい。



休園中の藤川保育園

質問 新学習指導要領の改正内容について。
教育長 ①授業時数は総合的学習の時間が減り、他の授業が小学6学年で42時間、中学3学年で40時間増える。小学1、2年で週2時間、3、6年と中学で週1時間増やせばいい。
質問 長期休暇を7日短縮して授業日数を増やしてもいい。その他色々な方法で学校側は児童生徒、地域の実態等を考慮して考えると思う。
町長 ②保護者に配布したパンフレットで強調しているのは「生きる力」をはぐくむこと。③大人も授業に参加できる仕組みをとる提案は難しいが、述べ100人余にご支援頂いており、今後一層増えると思う。
質問 徳山診療所活用対策委員会立ち上げを。
町長 国・県補助金に係る財産処分は緩和されたが県は他の目的への転用は困難。町



宿舎のままの徳山診療所

有財産有効活用検討委員会に回り、地域にも相談して進める。
質問 後期高齢者医療制度について。
町長 ①保険料は全国的にも当町も大半の世帯で下がるが、年金400万円位の高所得な単身者や夫婦世帯では当町は国保税が県下でも低い。②保険料が増える。③保険料が増える。滞納者への資格証明書は、支払い能力があっても納めない悪質者に限り適用する。納付相談などで個々の実情把握に努め、広域連合と連携してきめ細かな運用をする。③介護保険の低所得者救済策については、国の基準に準じ、一般財源の補填は慎重でなければならぬと考える。介護保険料負担は3年に1度の計画見直しの中で検討する。滞納者への罰則もあるが、

現在は滞納者で介護保険利用が必要な人は無い。納付困難な状況を十分把握して実施する。

答

- 負担軽減は誰も歓迎だ。中身の重さ、財源が重要
- 妊婦健診補助は今年から助産院も認める
- 休園中の保育園は最良の活用を地元と検討中